陳元贇碑の「拓本採り」企画

11月13日（土）
13：00～16：00

名古屋市東区　**建中寺**

名古屋市東区筒井　建中寺境内・本堂

慶安4年（1651年）に第2代尾張藩主徳川光友が、初代尾張藩主徳川義直の菩提を弔うと共に、人々の菩提を祈願するとして、建中寺を開山し、弘法大師を開基とする本堂などを建立した。

※各自、現地に集合してください。

当日のスケジュール

1. 建中寺境内で陳元贇の碑の拓本採り
2. 建中寺本堂で碑文及び陳元贇作品の鑑賞など（14：30頃～15：30）
3. 陳元贇研究会の今後の予定について
   若干の打ち合わせ後解散

建中寺にある陳元贇の記念碑

題額の文字「高節千古」は徳川義親公による
文章は服部拱、書は永井鐵、彫り手は大野勇吉

主催　陳元贇研究会　責任者　李麗
090-9123-3009　lili.xyy@gmail.com
共催　日中友好協会愛知県連合会

陳元贇について

江戸時代初期は明が滅亡して清に王朝が交代する変動期であり、その混乱を避けるために多くの明人が日本に渡来して日本の文化人と様々な交流を行った。

陳元贇（1587～1671）もまたそうした明人のひとりである。元和5（1619）年に来日し、長崎・京・江戸を往来して林羅山、石川丈山などの諸名士と交友をし、当時来日明人の中の白眉と呼ばれていた。寛永3（1626）年には将軍家光に謁見し、詩を賦したこともあった（徳川実紀）。

52歳の時に家康の九男である尾張藩初代藩主徳川義直がその名を聞き、彼を尾張に招聘し、晩年尾張藩で生涯を終えた。陳元贇の死後は尾張徳川の菩提寺徳興山建中寺に葬られた。

元贇は敬公（義直）廟を参拝した時に書いた詩に「東溟に跡を寄す數十春、公の升斗窮鱗を活することを感ず（中略）白頭一滴知に酬ふる涙、徳を銘じて千秋永く磷(うすろ)がず」と義直の知遇の恩に対して深く感激の情を著している。

陳元贇は在日すること52年にわたり、心を尽くして義直に仕え、多芸の才子と言われ、書道、詩文のほか、「元贇焼」と呼ばれる陶器の作り方、定光寺源敬公廟の設計、武術など、中国の文化を日本に伝達し、尾張藩にとどまらず日本文化を高めることに貢献した人物である。

２０２１年度　**主催：陳元贇研究会**